

かわまちづくりとは

かわまちづくりとは、河川空間とまち空間が融合し、地域資源や知恵を活かして、市町村、民間事業者、地域住民及び河川管理者が連携しながら、にぎわいと魅力ある水辺空間の形成を目指す取組です。久御山町では、宇治川の水辺とまちを一体的に捉え、防災とにぎわいが両立する拠点づくりを進めます。歴史や農地などの地域資源を活かし、住民や事業者のチャレンジを起点に水辺の新たな利活用を創出します。

計画期間 令和8年度～令和12年度

本計画の対象と地域の歴史・課題

■ 対象エリア

本計画では、宇治川左岸の西一口地区に位置する国土交通省ストックヤード周辺を対象エリアとします。対象地では現在、防災とにぎわいの拠点となる河川防災ステーション(MIZBEステーション)の整備が検討されており、当計画との連動が求められます。



図 かわまちづくり計画の対象エリア

■ 歴史・地域資源

本地域は、かつて巨椋池の干拓により形成された農地が広がるとともに、淀と一口を結ぶ渡し舟により人や物の往来を支えてきた歴史を有しています。現在も、農地や歴史資源、周辺施設など多様な地域資源が集積しています。また、近年は宇治川舟運の復活に向けた取組が進められており、水辺を活かした広域的な交流や回遊の可能性も高まっています。

■ 課題

一方で、河川空間は安全面の課題や親水空間の未整備により、日常的な利活用が十分に進んでいません。また、久御山町は町域全体が浸水想定区域に含まれており、防災機能の強化とあわせた水辺活用が求められています。



図 浸水した場合に想定される水深(久御山町洪水ハザードマップ)

これまでの取組状況

地域主体のトライアルを通じて機運を高め、構想策定や体制構築を進めてきました。

R5 (仮称)久御山町MIZUBEステーション事業計画書(骨子案)策定

R6 久御山町かわまちづくり構想策定・住民アンケート・WS実施

R7 河川空間活用トライアル(KUMIYAMA MIZUBE TRIAL)実施・MIZUBEパートナーズ(仮称)準備会発足

今後 トライアルの継続 / 活用・運営・事業スキームの検討



KUMIYAMA MIZUBE TRIALの様子

かわまちづくりで目指す姿

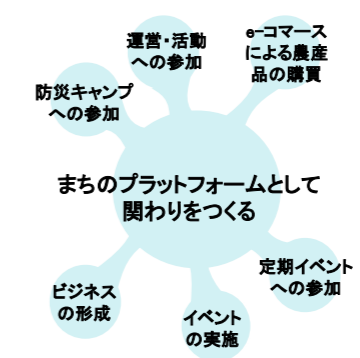
水辺をひらき渡しあい 水と生きる営みが満ちる 久御山
—人・時の流れが重なり 魅力が育ち まちの力となる—

「訪れる人」目線の目指す姿



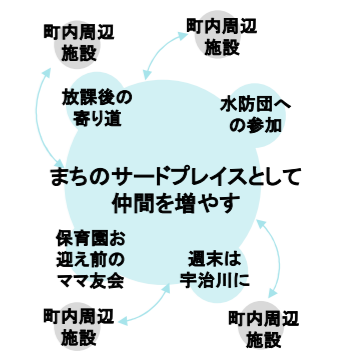
高水敷を中心に、イベントや防災・学習活動を通じて水辺に関わる「きっかけ」をつくる拠点到

「関わる人」目線の目指す姿



地域の事業者や団体、外部プレイヤーが関わり、活動や取組が継続・発展していく拠点到

「住む人」目線の目指す姿



水辺が日常の居場所として自然に使われ、防災時にも機能する拠点到

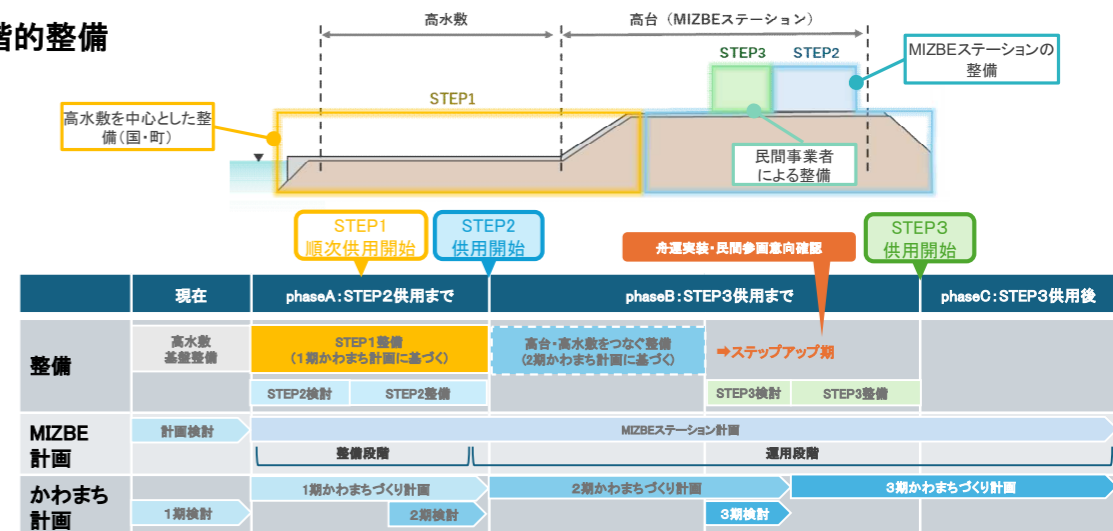
基本方針

4つの基本方針を定め、かわまちづくりを推進します。

基本方針 1	久御山町の魅力を発信し、訪れる人が楽しめる場づくり	宇治川の水辺を、舟運の歴史を踏まえた町の結節点として位置づける。農業・歴史・工業などの資源を発信し、人が集い魅力をかち合い、町内各地へと回遊が広がる拠点を形成する。
基本方針 2	地域の事業者・住民がチャレンジし営みが育つ場づくり	既存の取組をつなぐとともに、新たな挑戦が生まれ続ける場を創出する。多様な主体の「やってみよう」を受け止め、小さな試行を重ねながら拠点を育て、積み重なった営みを町の新たな魅力へと高める。
基本方針 3	自然・河川と親しみ、環境学習の場として機能する親水拠点づくり	親水空間の充実を図り、川の恵みと怖さを体験的に学べる場を整える。自然や治水の歴史への理解を深め、川と適切な距離で向き合う意識を育み、環境保全へとつながる関わりを創出する。
基本方針 4	災害時は命を守り、日常は河川や防災に関する学習の場として機能する水防・防災拠点づくり	水防センターを核に、平常時から学習や交流に活用される防災拠点を整備する。日常的な利用を通じて地域のつながりと防災力を高め、有事に円滑に機能するフェーズフリーの拠点をめざす。

基本方針に基づく段階的整備

社会実験による活用の蓄積を起点に、体制・制度・空間整備を段階的に進める方針としており、現在はSTEP1(高水敷を中心とした整備・利活用)に位置付けられます。



ソフト施策の展開

水辺を活かした活動の展開と、それを支える仕組みづくり、来訪・回遊を促す動線の確保を一体的に進めます。

ソフト施策 1

防災活動、水辺を活かしたアクティビティや、環境・地域の魅力を伝えるプログラムの展開

基本方針1. 久御山町の魅力を発信し、訪れる人が楽しめる場

拠点を発着点としたまち歩き・ガイドツアーの開催



○町内資源を活かした体験や食と連動したまち歩き・ガイドツアーの展開

観光舟運と連動した地域体験プログラムの展開



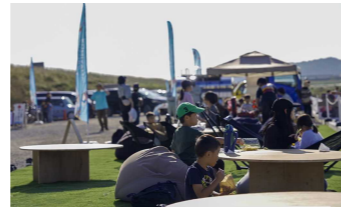
○船上で地産食材を用いた料理の提供や前川堤の桜の鑑賞ツアーなどを展開

高水敷等の空間を活用した子育て世代向けイベントの開催



○映画上映会、ワークショップなど子育て世代に向けたイベントの開催

多世代が気軽に集い、滞在できるプログラムの展開



○ヨガ、体操、写真撮影、スケッチなど、多世代が滞在可能なプログラムの実施

基本方針2. 地域の事業者・住民がチャレンジし、営みが育つ場

〈地域事業者との連携〉

歴史資源をはじめとした周辺・町内資源と連携した観光商品(ツアー等)の造成・展開



○水辺を起点に東一口集落(旧山田家)や巨椋池排水機場の見学ツアーの実施

隣接する農地と連携した農業体験・収穫体験の実施



○水辺が周辺農地とつながる観光拠点となり、農業体験・収穫体験を実施

〈地域等が主体の活動〉

パートナーズ会議(仮)及び所属する住民・団体主催のプログラムの実施



○新たな地域活動の創出や団体の育成、他のソフト施策との連動を図る

京都文教大学・久御山高校・町内小中学校の学生・生徒が関わるプログラムの実施



○学生・生徒と連携し、観光案内など、地域への愛着につながるプログラムを実施

基本方針3. 自然・河川と親しみ、環境学習の場として機能する親水拠点

SUP・カヤック等の水上アクティビティ体験の実施



○水辺空間を活用し、SUP・カヤック等の水上アクティビティを展開

高水敷を活用したBMX等のアーバンスポーツ体験の実施



○高水敷の広い空間を活かして、仮設でBMX等のアーバンスポーツ体験を展開

水辺の生き物観察や自然体験プログラムの実施



○宇治川の自然環境や生き物をテーマに、観察会・ワークショップ・展示などを実施

舟運(小型船舶・電動ボート)事業の実施



○小型船舶や電動ボートの運行により、かつての渡し舟を再生し、回遊性を向上

基本方針4. 災害時は命を守り、日常は河川や防災に関する学習の場として機能する水防・防災拠点

水防団による訓練の実施



○水防センターを拠点に、水防団が資機材の整備・点検や訓練を行い、災害時には初動対応を担う

災害時の円滑な避難行動に向けた訓練及び啓発の実施



○災害時に備え、地域住民・学校・企業等と連携した避難訓練を定期的実施。日常的に防災意識を高める啓発運動を展開

アクティビティや地域活動と連動した防災学習・体験プログラムの実施



○事前防災の拠点として、体験型で防災学習ができるよう整備を行い、学校向けに展示や防災体験プログラムを実施

ソフト施策 2

上記活動(ソフト施策1で展開される各種プログラム)を支える利用ルール・サポート制度・運営・活用の仕組みづくり

にぎわい・日常時

- ・住民や活動団体によるプログラムの新規実施及び継続に向けた、資金面の支援並びにパートナーズ会議(仮)による相談・サポート
- ・活動主体の意向及び安全面に配慮した、利用・運営ルールや仕組みの整理
- ・資機材の貸出・維持管理、環境整備(仮設トイレなど)、広報・発信支援等による活動を支える基盤整備
- ・トライアル実施を通じた、収益化・事業化を見据えた内容及び運営手法の段階的検討

防災・災害時

- ・災害時における利用ルールの設定
- ・水防団と連携した水防体制の構築
- ・地元自治会と連携した避難所運営体制の構築
- ・避難用品及び水防資機材のストック並びに維持管理
- ・拠点をきっかけとした地域の担い手育成及び関与促進 等

ソフト施策 3

訪れる動線を担保し、回遊を促す来訪・回遊の仕組みを整える

公共交通、自転車、徒歩等を組み合わせた来訪動線の整理



地域のバス運行事業者等との連携も含めた来訪手段の検討



シェアサイクルや小型モビリティ等の導入可能性を検討



拠点を起点とした町内資源(農地、歴史資源、商業施設等)への回遊ルートの整理及び可視化



イベント時等における臨時交通対応及び駐車場運用の整理



将来的な舟運との接続を見据えた動線及び結節点の検討



ハード施策の展開

■ 整備の方針

STEP1では、久御山町と河川管理者が連携し、高水敷においてスポーツや広場、自然学習の場づくり等の整備を進め、日常的・継続的な利活用を推進します。



整備エリア	整備項目	整備主体	主な利活用(パートナーズ(仮)との連携内容含む)
高水敷活用 エリア	アークスポーツゾーン	町	・BMX等のアークスポーツに係るコースの整備 ・小中学校の校外学習プログラム
	駐車場	町	・広場・賑わい拠点利用時の駐車場利用 ・イベント時の来客者駐車 ・地域内回遊イベントの発着点として利用可能
	多目的広場、芝生広場 ※トイレ・手洗い必須	町	・各種イベントの実施 ・交流、憩い、休憩の場として活用 ・町の魅力創出・発信の場として活用 ・みまきっこまんなか応援街づくり事業の活動拠点利用 ・校外学習・教育旅行等での活用
	自然学習が可能な場	町・ 河川管理者	・水辺での水遊び、カヌー、SUP等 ・水面利用イベントの実施 ・環境学習・自然体験プログラム ・校外学習・教育旅行等での活用 ・舟運の機能拡張スペース(機運醸成を持って検討)
	高水敷整正	河川管理者	・高水敷全体の整生
	河川管理用通路	河川管理者	・管理動線・災害時の活動動線 ・災害時の活動動線
水辺と高台をつなぐエリア	河川管理用通路、階段	河川管理者	・水辺と高台の円滑な動線確保 ・管理動線 ・災害時の活動動線
高台活用 エリア	高台(ストックヤード等)、 河川管理用通路	河川管理者	※MIZBEステーション事業(登録予定)での整備を検討
	事業用施設(水防センター、 広場、インフラ等)	町	※MIZBEステーション整備後に検討
	収益施設	民間事業者	※MIZBEステーション整備後に検討

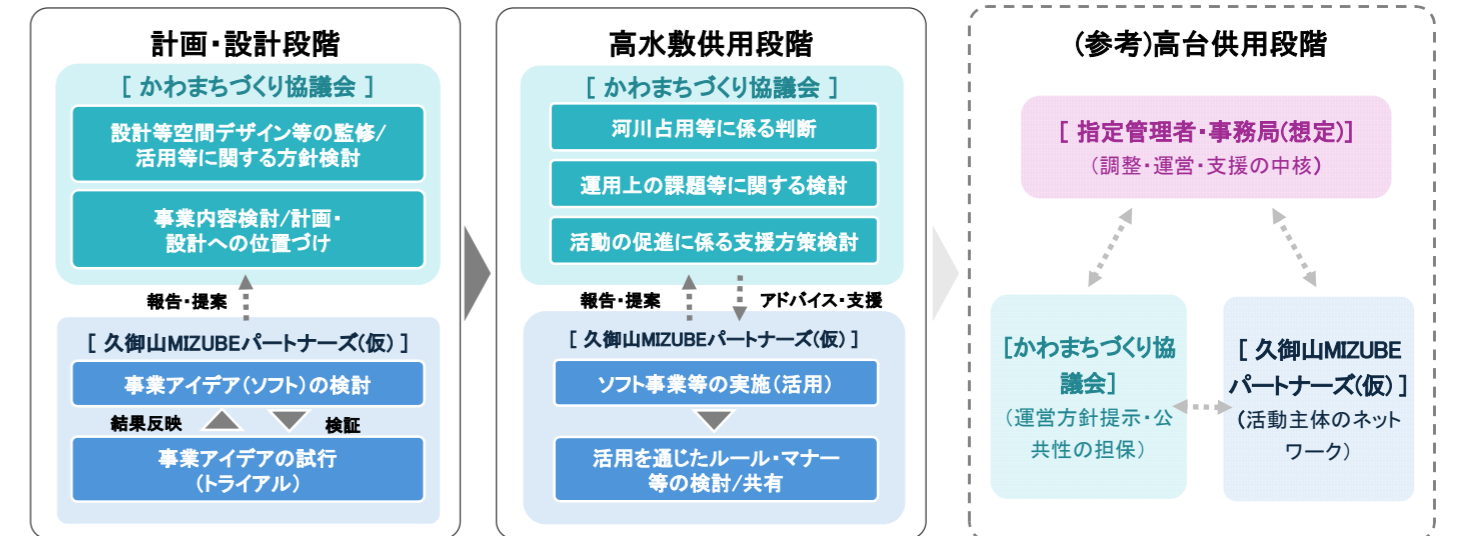
まちづくりに資する定量的目標

基本方針に基づき定量的目標を設定し、供用開始から5年後を目標年度とします。
なお、段階的な整備を踏まえ、高台供用開始時に指標・目標値の見直しを行います。

基本方針	指標	従前値	目標値
1 久御山町の魅力を発信し、訪れる人が楽しめる場づくり	イベント・施設利用満足度		60%(年平均値)
	取組の認知度(Instagramフォロワー数)	152人	1,500人(累積値)
2 地域の事業者・住民がチャレンジし営みが育つ場づくり	久御山町MIZUBEパートナーズ登録者数		100人(団体)(累積値)
	イベント・活動実施数		30回/年
	活動実施主体の継続意向		80%以上
3 自然・河川と親しみ、環境学習の場として機能する親水拠点づくり	自然・河川と親しむイベント・活動実施数		4回/年
	参加者の満足度		80%以上
4 災害時は命を守り、日常は河川や防災に関する学習の場として機能する水防・防災拠点づくり	防災活動(学習活動含む)の実施数		4回/年
	防災拠点としての認知度		60%以上

推進体制

MIZUBEパートナーズ(仮)を中心に、計画段階から協働による検討・実践を進め、供用後の利活用につなげます。将来的には、民間事業者が運営と調整、パートナーズ支援を担う体制を構築します。



整備スケジュール

MIZBEステーション事業と連携し、高水敷の整備を進めます。

種別	内容	主体	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
かわまち	計画策定	計画	協議会	→					
		推進	協議会		→	→	→	→	→
水辺整備	高水敷整正	計画・設計	国	→	→	→	→		
		施工	国		→	→	→	→	供用開始
拠点整備	管理用通路	計画・設計	国	→	→	→	→		
		施工	国		→	→	→	→	供用開始
高台整備	高台整備	計画・設計	国	→	→	→	→		
		施工	国		→	→	→	→	
		河川管理用通路整備	計画・設計	国	→	→	→	→	
拠点整備	事業用施設(水防センター、広場、インフラ等)の設置	計画・設計	町	→	→	→	→		
		施工	町		→	→	→	→	供用開始

※整備内容・スケジュールは現段階のものであり、今後変更の可能性がございます